

# 映像制作における学校放送番組の活用の効果

～学校放送番組が学習者の自主的な学びに与える可能性～

反田 任\*・小林祐紀\*\*・中川一史\*\*\*  
同志社中学校\*・茨城大学\*\*・放送大学\*\*\*

学校紹介動画の制作を行う過程で学校放送番組を活用し、学習者が自分自身で制作した動画をレビューし、同じ素材を用いて学校紹介が効果的に伝わる動画に仕上げる課題を実施した。動画を修正する過程において(1)学習者が放送番組の中で意識したキーワード、(2)学校放送番組視聴後に変更した動画の中の要素の2点について調査し、学校放送番組を自己調整学習の一つとして授業の中に位置づける活用の効果について論考する。

キーワード：学校放送番組，活用，自己調整学習，映像制作，授業

## 1. はじめに

映像制作においては「伝えたいことがら」を視聴者に「わかりやすく伝える」ことが重要である。また構成や内容の配置などの工夫が求められる。

大内(1979)は、視聴覚教材の役割として「学習の動機づけを高める」「新鮮さと多様性を与える」「学習者の経験を拡大する」と述べている。また大貫(2013)は、映像表現の基本的な知識や技能を学ぶためには映像表現のテキストや教材が必要であると述べている。

これらの先行研究では、動画の活用が「学習者が自らの学びを深める」ための手段として有効であるという結論に達しているが、効率的な学習を進めるためのビデオを含めた教材開発が必要であるとしている。

## 2. 研究の目的

本研究は、効率的な学習を進めるための教材として教員自作の動画ではなく、学校紹介動画の制作の過程において学校放送番組（以下、「番組」とする）を活用し、学習者が番組内のキーワードから、制作した動画を再編集するためにどのような点を留意したかを検証した上で、学習効果について考察する。

## 3. 授業の概要

調査対象は、第一筆者の勤務する中学校の生徒11名である。学校紹介動画を制作するために紹介したい学校内の画像をタブレットPCで10枚撮影し、組み合わせて必要であればテロップを加えた1分以内の

動画を制作する。制作後、動画制作に関するNHK for Schoolの「メディア・タイムズ」より、「正確にわかりやすく！情報番組」「伝える意図を明確に 映像編集」「記憶に残るCMづくり」の3本を視聴し、同じ画像を用いて順番や表示時間、効果などを考えて、動画を再構成して同様の学校紹介動画を制作する。なお、制作過程全体を通じて教員からの指示やアドバイスは全く行わず、学習者は番組内のキーワードや解説のみを参照して動画の再構成を行う。これにより番組を用いた自律的な学習効果を考察できると考えている。

## 4. 調査の結果

### 4.1. 再編集時に参考にした番組内のキーワード

視聴させた番組のテロップに出てくるキーワードを10語から、再編集の際に意識された語について生徒が3語を選択した調査の結果を以下に示す（図1）。

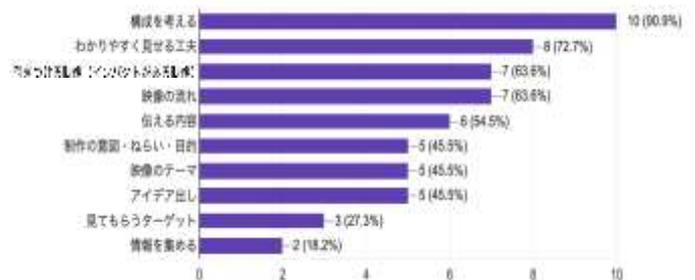


図1: 意識した番組内のキーワード

意識されたキーワードは上位から「構成を考える」「わかりやすく見せる工夫」「引きつける映像」「映像の流れ」となった。動画制作について教員からの

アドバイスを全く行わない状態で番組を視聴した生徒が、番組視聴後、動画制作に必要な要件に気づき、理解した上で、それぞれが制作した最初の動画に照らし合わせ、改善点の優先順位について自己分析を行なった結果であると考えられる。動画制作においては制作の目的に合わせて「構成を考える」ことが重要であり、その点が意識されたことは番組視聴による効果があったと言える。

#### 4.2. 再編集時の変更点とキーワードとの関係

次に最初に制作した動画と再構成した動画の変更点をキーワードと関係付けてまとめた結果を以下に示す(表1)。

表1: 再編集時の変更点とキーワード

わかりやすく見せる工夫
タイトルやテロップ(説明)を増やす
引きつける映像
効果音, アニメーションを追加する
構成を考える, 映像の流れ
画像の順番を入れ替える
視聴するターゲットを想定して全体を変更

※ ■ はキーワード

表1から意識したキーワードに基づいて動画の再編集が行われたことがわかる。それぞれのキーワードに合致した変更が行われていて、例えば、画像説明のためのテロップが11本の動画全体で10箇所増え、またBGMを入れた動画は2本増えた。また具体的にターゲットを設定して再編集したと推察できる動画もあった。

#### 4.3. 学習者に対するアンケート調査

再編集に関わって番組が与えた効果について学習者にアンケート調査「映像制作について番組視聴前後の意識の変化」を実施した。(図2)。

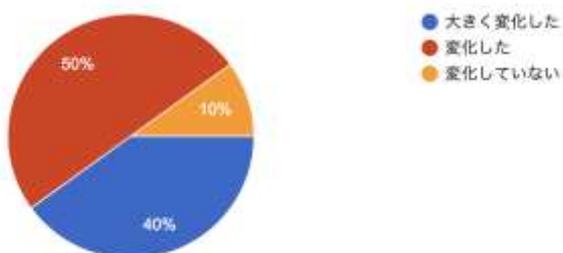


図2: 映像制作に関する番組視聴前後の意識変化

調査の結果、90%の学習者から「大きく変化した、変化した」との回答が得られ、番組視聴による学習者個人の学習が再編集に影響を与えたといえる。また、コメント欄を設け自由記述させたところ、映像制作に関わる部分だけでなく、学習者は映像について多くのことを学んでいることが示された。

以上のことから、教員が授業の中で適切な番組を選択し、学習者が視聴することにより、学習者は教員の意図したことを学び、課題に活かすことができると考える。また、放送番組はさまざまな視点から構成されているため、アンケート調査から判断できるように1つのテーマから派生して多様な学びに繋がるといえる。さらに番組視聴に関して「番組を見て学ぶことについてどう思いますか」と尋ねた結果に対して全員が「活用してみたい」と前向きな回答であった。

#### 5. 考察

本研究の結果、動画制作過程における番組の視聴により学習者に制作した動画を改善するための気づきが見られ、また積極的に番組を活用しようとする意識もあることがわかった。これは番組視聴の一定の効果があったことを示している。

番組が「動画制作」という課題に向けての「方略に関する知識」を得る役割を果たし、また番組内容が「再編集の動機付け」や「最初の動画のフィードバック」に役立ったため、学習者はよりよい動画を制作するための学びを継続できたと言える。このように指導者が適切な動画を選択し、学習に組み込むことが自律的な学びにも有効であると考えられる。

以上のことから、本研究では学習の過程で動画の改善点を見つけるという学習に対する注意の焦点化や自分の動画をレビューし改善する自己観察などの自己調整学習に番組の効果があったと言える。

#### 参考文献

- L.B.ニルソン (2017). 学生を自己調整学習者に育てる. 北大路書房, 京都.
- 大貫和則他(2013). 中学校における映像表現教育を導入するための課題についての一考察. 図書館情報メディア研究11巻2号, pp73-85.
- 大内茂男(1979)教授メディアの機能と特性, 視聴覚教育の理論と研究, 日本放送教育協会, pp216-222.